**はによるののです。**は、このを「であるキリスト」とい、イエスにのがあることをします。そのについては、のもっていますが、メシアをする「の」という、すなわち、イエスは、から、、をけられました。それは、イエスがのにい、でのしみとによるいをうされたからけられたものです。そのはからのものなので、、、のがイエスにえ、そのとはとこしえにくはずです。

**ので、**ピラトはイエスに「おがユダヤのなのか」ときました。そこでイエスは、そのがのえからのものなのか、それともほかのたちからいたことなのかをかめられました。それをいたピラトは、はユダヤではない、つまり、それはのえでもでもないことをはっきりとわしたうえで、イエスがをなさったのかをねました。そこでイエスは、ごのはこのにはしていないことをにされましたが、ピラトはイエスのからに「はそうだ」というをきたかったでしょう。それで、もう「それでは、やはりなのか」といたわけです。それにしてイエスは、「わたしがだとは、あなたがっていることです」とわれました。そしていて、「わたしはについてしをするためにまれ、そのためにこのにた。にするは、わたしのをく。」と、ごのについておっしゃいました。それは、のであるのみをべえることと、そのにうたちを、ごのにくことでしょう。イエスはそのなをのによってうされ、そのからのしみとをつめるたちを、ののとしてめられたのです。それは、ヨハネのの「きい」のでもられますが、イエスはきいとして、ごのにをけるたちをつのれとしていてくださるなのです。そうえると、やはり、イエスは「ごのをけ、えられるの、のみとおみをえられたの、としみでたちをき、められるのである」でしょう。

**ので、**ヨハネは「のわりの」のことをりながら、イエスのによってからされたたちが、イエスのをにし、また、にえるとなるとえています。ヨハネのによると、そのわれたたちにはとイエスのをするがえられるが、、イエスをきしたどもはきしむようになります。というものは、いつののあらゆるところであってもてはまるので、われたたちやきしむたちにするのみも、ただイエスののたちのことだけをしているのではありません。いえれば、でもをへりくだって、のしみとにちり、そのしみとをするにはのいとがえられます。しかし、どんなでもイエスのえとのにくたちは、あたかもイエスをきしたのようにわれ、らにはのしみとがえられるのです。これがいわゆる「の」で、そのきをうのはのであるイエスごなのです。そして、その、イエスのははっきりとわされ、ばれたはであるイエスによって、そののとしてえれられるはずです。そういうわけで、のでイエスは「わたしのはこのにはしていない。」とおっしゃったのです。

**では、そのにれるたちはどんなたちでしょうか。**イエスはかつて、あるのでそのたちについてえられました。そのたちは「のしい、しむ、な、にえく、れみい、のい、をする、のためにされる、イエスのためにののしられ、され、にえのないことであらゆるをびせられる」で、イエスはそのたちのなのです。イエスは「そのはいである。びなさい。いにびなさい。にはきないがある」とにされました。それはのでのしみやしみ、みやみ、などについてのめのではありません。むしろ、どんなのでも、イエスののえとをり、それにうたちにけられるなのです。わたしたちは、そののためにこののをみながら、イエスがえてくださったのをにし、それをしているわけです。わたしたちがにイエスのえとにってきるならば、のであるイエスはたちにもふさわしいをえてくださるでしょう。

**ところで、**ピラトは「おがユダヤのなのか」とね、はイエスとのかかわりもないことをせようとしましたが、のイエスののに、「ナザレのイエス、ユダヤの」というきをけることによって、そのをめることになりました。きっとは、そのきでイエスののかられられるとったでしょう。しかし、イエスのはこのにはしていないで、イエスはただ、こののでもいたち、なでしんでいるたちのなのです。ですから、であるイエスのをにもうとしているたちも、そのようなたちのとならなければなりません。それこそがのでしょう。これからもみんながつのつのとなって、イエスとにののをみけることができるよう、おりします。